



千葉動力車労働組合

第7回支部代表者会議開催

動労千葉は、九月三日、動力車会館において、第七回支部代表者会議を開催し、重大な岐路にたつ国鉄闘争をめぐる情勢と今秋闘争に向けて当面九月二十九・三十日に開催される第二三回定期大会の成功を全力でかちとる方針を確認した。

「国労の重大な路線転換
一〇四七名切り捨ては
許されない！」

国労は、八月二十六日、臨時中央執行委員会を開催し、以下の態度を決定して、八月三十日にJR各社に一斉に申し入れを行った。

- ①国労は、「改革法」に基づいて推移している現状を承認するとともに、基幹産業としてのJRの発展に寄与する。
- ②国労は、健全かつ正常な労使関係の構築を図る。
- ③不採用及び配属事件等、全事件について、和解の方向が明確になればただちに申し立て等の取り下げを行う。

この態度表明の重大な問題点は、第一に、「国鉄改革法を承認する」ということは、改革法二三条によってJRを不採用となり解雇された清算事業団労働者一〇四七名の解雇撤回の闘いを否定するのと同じことである。国家的不当労働行為として行われた分割・民営化による不当解雇撤回を求めるのではなく、「あくまでも人道上的観点」から、JRに解決をお願いするというものである。

第二に、和解が完全成立した時点ではなく、「和解の方向が明確になった時点」で全ての事件の取り下げを行うということ自体、闘争の放棄に等しいことである。

第三に、「JRの発展に寄与する」とは、今JRの中で吹き荒れる大合理化や小集団活動、会社が進める一切の施策に協力し、組合員に労働者としての尊厳をも吹き飛ばしかねない問題である。

「いよいよ深まるJR総連
連革マルの崩壊的危機」

一方、こうした状況の中で、JR総連連革マルの危機も深まっている。

国労の一連の動きに対して革マル派は、「悪魔に魂を売り渡した国労が、悪魔国家権力極反動分子と悪魔の契約を結んだ」「国家権力内極反動分子が、国労本部、旧鉄労II友愛会議、中核派、解放派、向坂協会、代々木共産党の一部をも活用した重包囲網をもって襲いかかっている」「一〇一五七も国家権力によるオウム科学班を使った謀略」「一連の事態は、あたりまえの労働運動を進めるJR総連を破壊するための謀略」であり、「東労組と強調するJR東日本経営陣を吹き飛ばすための策動」であり、「ひいてはわが同盟(革マル派のこと)を破壊するため

の謀略」という、ほとんど意味不明の論理で、国鉄闘争破壊に乗り出しているのである。

しかし一方、高崎支社では、八月一日、JR東労組から三名の青年労働者が脱退し、国労に加入するとうい事態が発生した。これに対して東労組は、「新潟での千名の脱退の比ではない重大事態」と叫び、連日数百名を動員して職場を占拠し、三名を拉致・監禁し、暴力的に脱退強要を行ったというのである。こうした事態からも、JR総連革マルのこれまでにない組織の崩壊的危機がはつきりしてきた。国鉄闘争の攻防の焦点は、危機にたつJR東労組革マルとJRの結託体制を打倒する道にこそあるのだ。

「千葉転夏季輸送闘争・
幕張有機溶剤問題
木更津支部脱退強要
問題について」

一方、千葉運転区支部を中心に闘われた夏季輸送闘争における八月一日の二名の要員配は、頑なに拒否してきた千葉支社を、動労千葉の整然としたスト体制が追い詰めた成果の表れであり、勝利をかちとりつつ前進してきた。

動労千葉としては、今後とも組合要求に基づき要員配を求めるとともに夏季輸送闘争の成果を確認し、千葉転における夏季輸送闘争を九月三日をもって一旦中断することとする。なお、次期ダイ改(一二月)に向けてさらに体制を強化することとする。

また、幕張支部での有機溶剤問題についても千葉支社の「謝罪」をかちとってきた。しかし現場責任者の謝罪が未だなされていらない状況から、職場での謝罪を求める取り組みをさらに継続することとする。

木更津支部脱退強要問題に関しても、小関支区長の不当労働行為を徹底的に追及し、決してあいまいにしないという観点からさらなる職場での闘いを強化することとする。

なお、不当労働行為や不当な業務指示が行われた場合には、いつでもストライキに突入できき強化することとする。

当面する取り組み	第二三回定期大会
日時	九月二十九日(日)
	一三時から
	三〇日(月)
	一二時まで
	各支部から傍聴動員を!
動労千葉物販担当者会議	
日時	一〇月三日(木)
	一八時から
場所	動力車会館にて
十一・一〇全国労働者集会	
月日	十一月一〇日(日)
場所	日比谷野外音楽堂
	五千名結集へ根こそぎ動員